

2023年度 小委員会活動成果報告

(2024年2月20日作成)

小委員会名	減災集落計画小委員会	主 査 名：菊池 義浩 就任年月：2022 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	農村計画委員会	委員長名：神吉紀世子
設 置 期 間	2022 年 4 月 ～ 2026 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・被災集落・地域における被害実態・復興過程を記録検証し、居住地の復興計画、集落施設の再建、生業や住宅を含む社会的再建のあり方を議論し、実現に向けた復興計画論の構築を目指す。 ・世代を超えて継承されてきた防災・減災の技法を明らかにする。 初年度：集落の復興事例や、集落が有するレジリエンスの仕組みに関する調査研究を行う。書籍等での成果発信。 2年度：集落の復興事例等に関する調査研究を行う。研究集会の企画実施。 3年度：集落の復興事例等に関する調査研究を行う。公開研究会の企画実施。 4年度：補足的な調査を行い、成果を取りまとめる。書籍等での成果発信。	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無	
	主査：菊池義浩 (仙台高等専門学校) 幹事：本塚智貴 (明石工業高等専門学校)、田中暁子 (後藤・安田記念東京都市研究所) 委員：荒木裕子 (京都府立大学)、浅井秀子 (鳥取大学)、岡田知子 (西日本工業大学名誉教授)、後藤隆太郎 (佐賀大学)、佐藤栄治 (宇都宮大学)、澤田雅浩 (兵庫県立大学)、下田元毅 (大手前大学)、鈴木孝男 (新潟食料農業大学)、田澤紘子 (東北芸術工科大学)、友淵貴之 (宮城大学)、林 和典 (近畿大学)、山崎寿一 (神戸大学名誉教授)	
設置 WG (WG 名：目的)		
2023年度予算	130,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：

項 目	自己評価
委員会開催数	4 回 小委員会 (8/9, 3 月中) 幹事会 (6/20, 1/12)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) * 能力開発支援事業委員会承認企画	
大会研究集会	1. 研究協議会：減災思考と実践 ― 豪雨被災を乗り越える集住のレジリエンス 『農村計画部門研究協議会資料：同上』 参加者数 43名
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 調査研究の遂行と情報共有：学会大会研究協議会を開催し、農村計画に限らず他分野からの参加者がみられ、有意義なディスカッションを行うことができた。また、R6 年度能登半島地震を受けて、2024 年 2 月からオンラインでショートレクチャーを連続開催 (主催：農村計画本委員会, 担当：減災集落小委員会) しており、被災地の現状と復興課題について意見交換を行っている。 第 1 回能登半島地震ショートレクチャー (2/6) 参加者数 約 15 名 第 2 回能登半島地震ショートレクチャー (2/21) 参加者数 17 名 第 3 回能登半島地震ショートレクチャー (3/7) 予定

	<p>2. 小委員会の開催：小委員会および幹事会を適宜開催し、小委員会の活動内容について検討・実施した。また、小委員会の会議にあわせて研究交流会を行っており、情報共有や小委員会としての研究テーマの展開を図っている。</p> <p>3. 研究成果の公開：引き続き、小委員会活動の蓄積を社会に還元するため、「災害としなやかに付き合う知恵」をテーマとした連載（雑誌：ニューライフ）を行っている。</p> <p>2023年9月号「集落の中心に建設された公民館で生み出されるつながり―岩手県大槌町吉里吉里地区」（田中），2024年1月号「防火を考慮して形成された町並み」（浅井），2024年3月号「予定」</p>
<p>委員会活動の問題点 ・課題</p>	<p>1. 委員会活動の時間の確保、委員の日程調整の困難さなど</p> <p>2. 研究予算の獲得</p> <p>3. 委員会活動（企画・連載等）の情報発信・広報</p> <p>4. 若手委員の参加（ワーキンググループの設置の検討）</p>